

国語科学習活動案

日時 2005年10月5日 第2教時

児童 2年1組 男子13名 女子11名 計24名

指導者 太田 淳

研究主題：『学び』の花を育てよう、咲かせよう

～自分の思いを持ち、豊かに表現できる子どもの育成を目指して～

1. 学習材名 『かさこじぞう』（物語 岩崎 京子作）

2. これまでの学習活動

国語科においては、クラスの全員が一番取り組みやすい『音読』（読むこと）を重点に学習を進めてきた。また「書く」「話す、聞く」「言語事項」も、基本を十分に身につけることにより、相乗効果により「読む」ことが更に高まってくると考え、各領域を関連付けながらの学習を心がけてきた。低学年は学習の基礎基本の定着が最も重要となる。重点としている読むことを通して国語力を高め、基礎基本の定着に取り組んできた。

【読むこと】にかかわって

入学後のひらがな文字学習では、「あいうえおさま」を使ったひらがなの学習、また口の形を意識して「あ・い・う・え・お」の発声練習も行った。楽しみながら発声をすることで文字の読みを学習していく中で、人前で声を出すことへの抵抗を減らしていった。



少しずつ文章が出てきた段階では、内容をじっくり考えることよりも音読の練習回数を優先してきた。文章を自分の力で読めないことには、その先の力についてはいけない。また初期の文章は内容的にもそれほど難しくはないので、繰り返し音読をすることによってその内容は理解できてくる。音読をすることにより、自分の目と声と耳とで内容が入ってくる。



1年生の時は目標『すらすら名人になろう』を立てて学習を進めた。「大きな声で」「口をはっきり開けて」「間違わない」「点や丸を休む」「ゆっくりしていねいに」の5項目を常に意識した読みを行い、全員がすらすら読めることを目指して学習してきた。また、個人・ペア・グループ・全員といった様々な形態、一斉読み・追い読み・一文読み・リレー読み・間違い読み・早読みなどといった様々な手段で練習を行ってきた。



2年で出てきた学習材「すみれとあり」「鳥のちえ」では、グループに分かれて音読練習を重ね、テープに録音して読みを聞き返すことも行った。さらによくするために気をつけることなどを話し合いながら学習を進め、最後には校長先生などのところに行って音読発表を聞いてもらう学習活動を行った。聞く相手がいることで自分たちの読みをさらによくするために取り組み、学習活動への意欲の向上にもつながった。



すらすらと正確に音読する力がついてきたので、音読表現に少しずつ取り組み始めた。前学習材「きつねのおきゃくさま」では、自分の考えや思いを音読で表現する学習活動を行った。自然と表現をつけて読める児童もいたが、自分の思いを表現にうまくつなげられない、表現の仕方を自分でみつけられない児童が見られた。

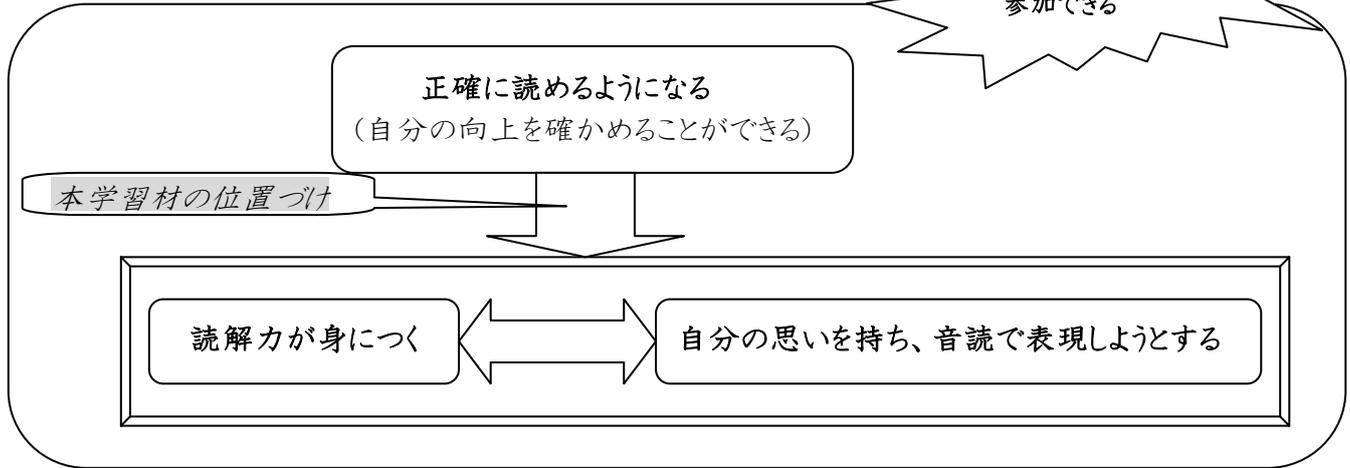


本学習材「かさこじぞう」

3. 本学習活動で培う基礎基本

【音読を中心とした学習活動】

楽しみながら学習に
参加できる



【本学習材にかかわって】

本学習材
のねらい

グループ学習を通して、音読での表現の仕方や思いの伝え方を学び合い、登場人物の心情や場面の様子を考えて表現しようとする。

グループによる学習では、話し合うことで個人個人の思いは吸収されてしまうだろう。そのため、確かに一人一人の思いを音読で表現できるとは言えない。しかし、本学習材では学級の実態もふまえて、あえてグループでの役割読みを行う活動を取り入れた。

【グループ役割読みのねらい】

- グループの中で表現の仕方を話し合い、音読での工夫を考えることができる。
- 役割読みをすることで、登場人物の心情や場面の様子を考えることができる。
- 一人で学習を進めることが困難な児童でも、グループの中で学習に参加しやすくなる。

本学習材で身に付けたことをこれからの学習につなげていくことで、自分なりの思いを持ち、音読で表現できる児童を育てていきたい。

4. 学習活動計画(全13時間)

時間	学 習 活 動	評価規準
1・2	「かさこじぞう」との出会い ・範読 ・紙芝居での発表会を提示、今後の学習のねらいについて ・難解語句の確認 ・新出漢字の確認 ・場面分け	・関心を持ってかさこじぞうの話聞く ・今後の学習に意欲を持つ ・語句・漢字の意味・用法を理解する
	紙芝居で「かさこじぞう」を音読発表しよう ・場面ごとに音読練習(全員・個人) ・グループに分かれて場面ごとに話し合いながら役割読み練習 (グループ練習、交流、発表) ・他のグループの音読を聞き、よさを認め合う 本時⑩	・すらすらと正確に音読する ・目的を持ち、グループで学習を進める ・グループ学習の中で音読の工夫を考える ・他の読みを聞いて、よさを見つける
13	「かさこじぞう」を聞かせに行こう ・グループごとに読みを完成させる ・紙芝居での音読発表を聞いてもらう(先生方・1年・上学年など)	・発表に向けて意欲的に練習する ・思いを持って音読で表現する

5. 学習活動の展開

(1) 本時の目標

- ・ グループ学習の中で読み方の工夫を考え、音読で表現しようとする。
- ・ 友だちの音読を聞いて、その良さや工夫について考える。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	教師の支援
<p>個人練習 ～すらすら音読するための練習</p> <p>・一人読み ・速読</p>	<p>・すらすら読めない児童の支援。</p>
<p>グループ練習</p> <p>グループごとに役割読みを練習しよう ～お互いが意見し合い、グループの読みを高めていく～</p> <p>こんなことが伝わるように読もう！</p> <p>こんなところを工夫して読もう！</p>	<p>・紙芝居をグループ分用意。</p> <p>・グループで立てた目あてに向け、読みを工夫していけるように支援。</p>
<p>グループ交流</p> <p>グループ同士で紙芝居を使って発表し合おう</p> <p>◎発表前、読み手側から工夫するところを伝える 【例】「〇〇が伝わるように△△を工夫して読みます」</p> <p>◎発表後、聞き手側は良かったところや改善点を伝える</p>	<p>・聞き手の視点を、音読の工夫しているところに向けさせたい。</p>
<p>グループ修正練習</p> <p>～交流での意見をもとに、グループの音読をさらに良いものへ～</p> <p>もっとこうやって読もう！</p>	<p>・グループ交流での意見を生かせるような働きかけをする。</p>
<p>グループ発表</p> <p>代表グループが発表(OHPで投影) ※発表の仕方はグループ交流と同様</p>	<p>・OHP 機器の準備、設置。</p>

(3) 本時の評価

- ・ グループ学習の中で読み方の工夫を考え、音読で表現しようとすることができたか。
- ・ 友だちの音読を聞いて、その良さや工夫について考えることができたか。